

成人病特に高血圧症の疫学的研究

第 3 篇

自覚症及び疾病の検討

岡山大学医学部第一内科教室 (主任: 小坂淳夫教授)

専攻生 伊 達 寛 子

〔昭和35年11月24日受稿〕

緒 言

近年成人病として脳卒中、癌、老衰、心臓疾患等が重要視され、各種の検索が試みられているが、臨床上重要な指標となる自覚症に就いての詳細な検索は少ない。即ち血圧と自覚症との関係については養老院を対象とした沖中等¹⁾²⁾の研究があるが、これは脳神経脳動脈硬化を中心とするものであり、又田坂等³⁾は老人性疼痛のみについて述べ、神経症状のみについては新⁴⁾の研究がある。従つて広範な成人に関する自覚症の研究はみられないので、著者は成人病検索に際し自覚症と血圧との関係及び自覚症と成人病との関係につき詳細検索し、興味ある所見をえた。

研究 方 法

岡山県下全般にわたり成人病検診を行い、年齢20~80才代迄を対象として、成人に最も多くみられる自覚症、頭痛、めまい、耳鳴、不眠、夜間尿、心悸、しんせん、しびれ感、肩凝、倦怠感、便秘、胃部膨満、嘔吐、嚔気、咳嗽、喀痰につき厳格に診察をとり、これを収縮期及び拡張期血圧別、男女別に分類集計した。

成人病の診断にあつては安静時血圧測定、尿定性(蛋白、糖、ウロビノーゲン)身体計測(身長、体重、胸囲)肺活量、毛細管脆弱度測定、胸部レン

トゲン撮影(6×6)、眼底検査、心電図、必要に応じ肝機能(高田、グロス、チモール、CCF反応、その他)内科診察等行つた。その方法の詳細は第1編に記載した通りである。

尚血圧については収縮期、拡張期共に正常群及び高血圧群にわけ、更に高血圧群を収縮期に於いて、150~179mmHg群、180~209mmHg群、210mmHg以上群の3群に、拡張期では90~109mmHg群及び110mmHg以上群に分類し検討を加えた。

成 績

1. 自覚症

1.1. 頭痛

表1の如く男26.6%に対し女53.5%で男性については高血圧群に高率に認められ、その高度となるに従つて多くみられるが、女性は血圧との関係はなく、男性に比して非常に高率で、又男女計では血圧との関係は著明でない。

1.2. めまい

表2の如く男性16%に対し、女性31.5%で、頭痛同様女性に2倍多い。男女共に正常血圧群に最も高率に認められ、高血圧群でにかへつて減少している。しかしながらその高度なるものに少々高率にみられる。

1.3. 耳鳴

表3に於ける如く全体の29.7%にみられ男性27.6

表 1 頭 痛

性別	血圧	収縮期	150~179	180~209	210以上	拡張期	90~109	110以上	計
	149mmHg以下	以下				89以上			
男	95 (25.5)	43 (26.7)	23 (29.1)	13 (30.2)	86 (21.9)	71 (35.8)	17 (27.0)	174 (26.6)	
女	171 (56.1)	72 (50.0)	23 (50.0)	13 (52.0)	169 (53.0)	89 (54.6)	20 (52.6)	278 (53.5)	
計	266 (39.3)	115 (37.7)	46 (36.8)	26 (38.2)	255 (35.8)	160 (44.3)	37 (36.6)	454 (38.6)	

表 2 め ま い

性別	血圧 収縮期 149mmHg 以下	150~179	180~209	210 以上	拡張期 89 以下	90~109	110 以上	計
		男	68 (18.3)	23 (14.3)	7 (8.9)	6 (14.0)	72 (18.3)	25 (15.3)
女	109 (35.7)	37 (25.7)	11 (23.9)	8 (32.0)	102 (32.0)	47 (28.8)	15 (39.5)	164 (31.5)
計	177 (26.1)	60 (19.7)	18 (14.4)	14 (20.6)	174 (24.4)	72 (19.9)	23 (22.8)	269 (22.9)

表 3 耳 鳴

性別	血圧 収縮期 149mmHg 以下	150~179	180~209	210 以上	拡張期 89 以下	90~109	110 以上	計
		男	93 (25.0)	47 (29.2)	28 (35.4)	12 (27.9)	107 (27.2)	56 (28.1)
女	101 (33.1)	42 (29.2)	18 (39.1)	7 (28.0)	103 (32.3)	55 (33.7)	10 (26.3)	168 (32.4)
計	194 (28.7)	89 (29.2)	46 (36.8)	19 (27.9)	210 (29.5)	111 (30.7)	28 (27.7)	349 (29.7)

％に対し、女性32.4％で女性に多くみられる。

次に男性では高血圧群に高率に認められ、女性で高血圧群と正常血圧群の間に明らかな関係はみられない。男女共に収縮期血圧 180~209 mmHg 群に、拡張期血圧では 90~109 mmHg 群に最高に認めた。

1.4. 不眠

表 4 にみられる如く、男性23.8％に対し女性33.3％で女性に約 1.5 倍多くみられる。正常血圧群より高血圧群に於いて男性女性共に高率を示す。又収縮期血圧 180~209 mmHg 群に最高に認められる。

1.5. 夜間尿

表 5 に示す如く、男性16.6％に対し、女性21.5％で女性に多くみられる。

男性女性共に血圧上昇に従い高率を示し、収縮期血圧 210 mmHg 以上群に於いては、正常血圧群の 2 倍強の高率を示す。

年齢に関しては、その高令なるに従い高率を示し、40才代、50才代、60才代は大体血圧上昇と平行して増加をみるが、70才代に於いては高血圧と夜間尿との関係はみられず、全体として高率に認められる。

表 4 不 眠

性別	血圧 収縮期 149mmHg 以下	150~179	180~209	210 以上	拡張期 89 以下	90~109	110 以上	計
		男	88 (23.7)	39 (24.2)	21 (26.6)	7 (16.3)	87 (22.1)	52 (26.1)
女	100 (32.8)	43 (29.9)	18 (39.1)	12 (48.0)	99 (31.0)	60 (36.8)	14 (36.8)	173 (33.3)
計	188 (28.8)	82 (26.9)	39 (31.2)	19 (27.9)	186 (26.1)	112 (30.9)	31 (30.7)	329 (28.0)

表 5 夜 間 尿

年代	血圧 収縮期 149mmHg 以下	150~179	180~209	210 以上	89 以下	90~109	110 以上	計
		30才代	8 (9.6)		1		8 (10.0)	
40才代	24 (13.5)	5 (12.5)	3 (21.4)	4 (44.4)	20 (12.3)	10 (16.4)	6 (35.3)	36 (14.9)
50才代	33 (13.9)	12 (11.2)	9 (21.4)	7 (30.4)	29 (12.0)	22 (17.2)	10 (24.4)	61 (14.9)
60才代	25 (21.8)	26 (23.4)	10 (20.4)	8 (29.6)	27 (18.0)	33 (25.8)	7 (16.7)	67 (21.8)
70才代	13 (46.4)	12 (35.3)	5 (31.2)	4 (50.0)	18 (37.5)	15 (44.1)	1 (25.0)	34 (38.4)
男	48 (12.9)	29 (18.0)	17 (21.5)	8 (18.6)	51 (13.0)	40 (20.1)	18 (28.6)	109 (16.6)
女	58 (19.0)	27 (18.8)	12 (26.1)	17 (68.0)	54 (16.9)	42 (25.8)	16 (42.1)	112 (21.5)
計	106 (15.7)	56 (18.4)	29 (23.2)	25 (36.8)	105 (14.7)	82 (22.7)	34 (33.7)	221 (18.8)

1.6. 心悸亢進

表6にみられる如く、男性28.5%に対し女性45.6%で、女性に非常に多くみられる。男性については高血圧群に少々高率に認められるが、女性では反対に正常血圧群に高率を示す。

1.7. しんせん

表7の如く男性9.6%に対し、女性10.6%で、女性に稍々多く認める。

男性女性共に高血圧群に高率に認められ、収縮期血圧180~209mmHg群及び拡張期血圧90~109mmHg群に最も多くみられる。

1.8. しびれ感

表8にみられる如く、男性19.7%に対し女性30.6%で、女性に1.5倍多くみられ、全体の24.5%に認められる。又男女共に高血圧群に高率に認められ、収縮期血圧180~209mmHg群及び拡張期血圧90~109mmHg群に最高にみられる。

年齢との関係については、その高率となるに従い高率に認められる。70才代では血圧の高低と関係なく最も高率にみられる。

1.9. 肩凝

表9に示す如く、男性44.7%に対して、女性69.4%で、女性は男性の1.5倍である。男女共に高血圧群が正常血圧群より少々低率に認められ、全体で55.7%を示し、非常に高率にみられる。

1.10. 倦怠感

表10の如く男性より女性に多数みられる。高血圧群では正常血圧群より低率に認める。

1.11. 便秘

表11の如く男性14.5%に対し、女性29.4%で約2倍女性に多くみられる。男女共に高血圧群に於いて僅か高率に認められる。

1.12. 胃部膨満感

表12にみられる如く、男性20.6%、女性24.4%で

表6 心悸亢進

性別	血圧	収縮期 149mmHg 以下	150~179	180~209	210以上	拡張期 89 以下	90~109	110以上	計
	男	98 (26.3)	45 (28.0)	34 (43.0)	10 (23.3)	110 (27.0)	59 (29.6)	18 (28.6)	187 (28.5)
女	148 (48.5)	64 (44.4)	15 (32.6)	11 (44.0)	145 (45.5)	77 (47.2)	15 (39.5)	237 (45.6)	
計	246 (36.3)	109 (35.7)	49 (39.2)	21 (30.9)	255 (35.8)	136 (37.6)	33 (32.7)	424 (36.1)	

表7 しんせん

性別	血圧	収縮期 149mmHg 以下	150~179	180~209	210以上	拡張期 89 以下	90~109	110以上	計
	男	34 (9.1)	15 (9.3)	9 (11.4)	5 (11.6)	35 (8.9)	23 (11.6)	5 (7.9)	63 (9.6)
女	29 (9.5)	16 (11.1)	8 (17.4)	3 (12.0)	25 (7.8)	23 (14.1)	7 (18.4)	55 (10.6)	
計	63 (9.3)	31 (10.2)	17 (13.6)	8 (11.8)	60 (8.4)	46 (12.7)	12 (11.9)	118 (10.0)	

表8 しびれ感

年代	血圧	収縮期 149mmHg 以下	150~179	180~209	210以上	拡張期 89 以下	90~109	110以上	計
	30才代	14 (16.9)	2 (18.2)	1 (50.0)	1 (33.3)	13 (16.3)	4 (28.6)	1 (33.3)	18 (18.6)
40才代	30 (16.9)	7 (17.5)	2 (14.3)	4 (44.4)	27 (16.6)	12 (19.7)	4 (23.5)	43 (17.8)	
50才代	63 (26.5)	23 (21.5)	14 (33.3)	6 (87.0)	60 (24.9)	37 (28.9)	9 (22.0)	106 (25.9)	
60才代	39 (32.5)	33 (29.7)	12 (40.8)	3 (11.1)	47 (31.3)	33 (27.3)	7 (19.4)	87 (28.3)	
70才代	10 (35.7)	9 (26.5)	5 (31.3)	1 (12.5)	10 (20.8)	15 (44.1)		25 (29.1)	
男	68 (18.3)	35 (21.7)	20 (25.3)	6 (14.0)	74 (18.8)	44 (22.1)	11 (17.5)	129 (19.7)	
女	96 (31.5)	40 (27.8)	15 (32.6)	12 (48.0)	90 (28.2)	59 (36.2)	10 (26.3)	159 (30.6)	
計	164 (24.2)	75 (24.6)	35 (28.0)	18 (26.5)	164 (23.0)	103 (28.5)	21 (20.8)	288 (24.5)	

表 9 肩 凝

性別	血圧	収縮期	150~179	180~209	210 以上	拡張期	90~109	110 以上	計
		149mmHg 以下				89 以下			
男	178 (47.8)	64 (39.8)	31 (39.2)	20 (46.5)	183 (46.6)	80 (40.2)	30 (47.6)	293 (44.7)	
女	219 (71.8)	105 (72.9)	26 (56.5)	12 (48.0)	224 (70.2)	116 (71.2)	21 (35.3)	361 (69.4)	
計	397 (68.6)	169 (55.4)	57 (45.6)	32 (47.1)	407 (57.2)	196 (54.1)	51 (50.5)	654 (55.7)	

表 10 倦 怠 感

性別	血圧	収縮期	150~179	180~209	210 以上	拡張期	90~109	110 以上	計
		149mmHg 以下				89 以下			
男	152 (40.9)	49 (30.4)	20 (25.3)	11 (25.6)	158 (40.2)	56 (28.1)	18 (28.6)	232 (35.4)	
女	148 (48.5)	53 (36.8)	17 (37.0)	8 (32.0)	142 (44.5)	69 (42.3)	14 (36.8)	225 (43.3)	
計	300 (44.3)	102 (33.4)	37 (29.6)	19 (27.9)	300 (42.1)	125 (34.5)	32 (31.7)	457 (38.9)	

表 11 便 秘

性別	血圧	収縮期	150~179	180~209	210 以上	拡張期	90~109	110 以上	計
		149mmHg 以下				89 以下			
男	57 (15.3)	17 (10.6)	16 (20.3)	5 (11.6)	54 (13.7)	33 (16.6)	8 (12.7)	95 (14.5)	
女	92 (30.2)	39 (27.1)	14 (30.4)	11 (44.0)	92 (28.8)	47 (28.8)	14 (36.8)	153 (29.4)	
計	149 (22.0)	56 (18.4)	30 (24.0)	16 (23.5)	146 (20.5)	80 (22.1)	22 (21.8)	248 (21.1)	

表 12 胃 部 膨 満 感

性別	血圧	収縮期	150~179	180~209	210 以上	拡張期	90~109	110 以上	計
		149mmHg 以下				89 以下			
男	84 (22.6)	31 (19.3)	15 (19.0)	5 (11.6)	81 (20.6)	39 (19.6)	15 (23.8)	135 (20.6)	
女	85 (27.9)	28 (19.4)	10 (21.7)	4 (16.0)	85 (26.6)	34 (20.9)	8 (21.1)	127 (24.4)	
計	169 (25.0)	59 (19.3)	25 (20.0)	9 (13.2)	166 (23.3)	73 (20.2)	23 (22.8)	262 (22.2)	

女性に多くみられる。男女性共に正常血圧群より高血圧群に少なく、高血圧の高度となるに従って低率となり、収縮期血圧 210 mmHg 以上群に最低である。

1. 13. 嘔 吐

表13の如く、男性8.3%に対し女性9.4%で、女性に稍々高率に認められる。又男性の高血圧群では正常血圧群より少く、その高度となるに従い低率となる。女性に於いては、血圧との関係は明らかでなく、拡張期血圧については高血圧群に高率にみられる。

1. 14. 嘔 気

表14の如く、男性7.0%に対し、女性13.4%で、約2倍女性に多く認められ、又高血圧群では正常血圧群より低率にみられる。高血圧が高度となるに従い減少を示す。但し男性の拡張期血圧のみは反対傾向を示しているが、その上昇率は少ない。

1. 15. 咳 嗽

表15に示す如く、男性14.4%、女性11.3%で前記諸症状と異なり男性に稍々高率に認められる。男女共に高血圧群に於いて、正常血圧群より高率を示し、収縮期血圧 210 mmHg 以上群に最高に認められ、拡張期血圧では 90~109 mmHg 群に最も多くみられる。

1. 16. 喀 痰

表16の如く男性に高率で、女性10.9%に対し、男性15.6%である。全体の傾向として高度高血圧群に多くみられている。

2. 成人病

検診時の疾病で最も多いのは表17の如く、①本態性高血圧症 41.1%、②動脈硬化症 37.1%、③心臓性疾患 12.9%、④神経痛及びロイマ 8.1%、⑤胃腸炎 8.0%、⑥肝臓障害 6.1%である。

表 13 喘 雑

性別	血圧	収縮期 149mmHg 以下	150~179	180~209	210 以上	拡張期 89 以下	90~109	110 以上	計
	男	35 (9.4)	16 (9.9)	4 (5.1)	1 (2.3)	34 (8.7)	17 (8.5)	4 (6.3)	55 (8.3)
女	25 (8.2)	15 (10.4)	3 (6.5)	4 (16.0)	28 (8.8)	16 (9.8)	5 (13.2)	49 (9.4)	
計	60 (8.9)	31 (10.2)	7 (5.6)	5 (7.4)	62 (8.7)	33 (9.1)	9 (8.9)	104 (8.9)	

表 14 噁 気

性別	血圧	収縮期 149mmHg 以下	150~179	180~209	210 以上	拡張期 89 以下	90~109	110 以上	計
	男	28 (7.5)	13 (8.1)	2 (2.5)	2 (4.7)	26 (6.6)	15 (7.5)	5 (7.9)	46 (7.0)
女	50 (16.4)	14 (9.7)	4 (8.7)	3 (12.0)	49 (15.4)	19 (11.7)	2 (5.3)	70 (13.4)	
計	78 (11.5)	27 (8.9)	6 (4.8)	5 (7.4)	75 (10.5)	34 (9.4)	7 (6.9)	116 (9.9)	

表 15 咳 嗽

性別	血圧	収縮期 149mmHg 以下	150~179	180~209	210 以上	拡張期 89 以下	90~109	110 以上	計
	男	50 (13.4)	24 (14.9)	13 (16.5)	12 (27.9)	53 (13.5)	31 (15.6)	10 (15.9)	94 (14.4)
女	33 (10.8)	17 (11.8)	7 (15.2)	2 (8.0)	34 (10.7)	22 (13.5)	3 (7.9)	59 (11.3)	
計	83 (12.3)	41 (13.4)	20 (16.0)	14 (20.6)	87 (12.2)	53 (14.6)	13 (12.9)	153 (13.0)	

表 16 喀 痰

性別	血圧	収縮期 149mmHg 以下	150~179	180~209	210 以上	拡張期 89 以下	90~109	110 以上	計
	男	63 (16.9)	22 (13.7)	10 (12.7)	10 (23.3)	62 (15.8)	26 (13.1)	14 (22.2)	102 (15.6)
女	36 (11.8)	14 (9.7)	8 (17.4)	2 (8.0)	31 (9.7)	23 (14.1)	3 (7.9)	57 (10.9)	
計	99 (14.9)	36 (11.8)	18 (14.4)	12 (17.6)	93 (13.1)	49 (13.5)	17 (16.8)	159 (13.5)	

表 17 血 圧 別 成 人 病

各種疾病	収縮期血圧				計	%
	149mmHg以下	150~179	180~209	210 以上		
本 態 性 高 血 圧	43 (6.4)	247 (81.0)	125 (100)	68 (100)	483	(41.1)
動 脈 硬 化	107 (15.8)	172 (56.4)	99 (79.0)	58 (85.3)	436	(37.1)
心 臓 病	104 (15.4)	35 (11.5)	8 (6.4)	4 (5.9)	151	(12.9)
神 經 痛 ロ イ マ	61 (9.2)	25 (8.2)	5 (4.0)	4 (5.9)	95	(8.1)
喘 息	16 (2.4)	6 (2.0)	2 (1.6)	1 (1.5)	25	(2.1)
更 年 期 障 碍	24 (3.5)				24	(2.0)
肥 満 症	17 (2.5)	8 (2.6)	1 (0.8)	1 (1.5)	27	(2.3)
神 經 症	26 (3.8)				26	(2.2)
胃 腸 炎	65 (9.5)	24 (7.9)	3 (2.4)	2 (2.9)	94	(8.0)
胃 及 び 十 二 指 腸 潰 瘍	20 (3.0)	3 (1.0)	2 (1.6)	1 (1.5)	26	(2.2)
糖 尿 病	17 (2.5)	5 (1.6)	6 (4.8)	3 (4.4)	31	(2.6)
脚 気	30 (4.4)	8 (2.6)			38	(3.2)
貧 血	27 (4.0)	2 (0.6)		1 (1.5)	30	(2.6)
肝 臓 障 碍	45 (6.6)	13 (4.2)	10 (8.0)	4 (5.9)	72	(6.1)
結 核	25 (3.7)	6 (2.0)	5 (4.0)	1 (1.5)	37	(3.1)
そ の 他	132 (19.5)	15 (4.9)	7 (5.6)	3 (4.4)	157	(13.4)
検 診 人 員	677	305	125	68	1,175	

血圧上昇に従つて増加するものは、本態性高血圧症、動脈硬化症、糖尿病であるが、前2者種糖尿病の増加は著明でない。

血圧上昇に従い減少するものは、心臓性疾患、胃腸炎、貧血、脚氣、胃及び十二指腸潰瘍、神経痛及びロイマ、喘息である。

血圧と関係をみないものは肝臓病及び結核である。

次に性別に分けて検討すると表18の如く、男性に高率な疾患は、本態性高血圧症、動脈硬化症、喘息、肥満、糖尿病、胃及び十二指腸潰瘍、結核である。中でも動脈硬化は男性42.4%に対し女性29.6%で、

男性に著明に高率である。喘息については男性3.1%に対し女性1.3%で、男性は2倍以上である。肥満も男性3.1%、女性1.3%で、他の疾患では男性に少々多いのみである。

女性に多いのは、心臓疾患、神経痛及びロイマ、神経症、胃腸炎、脚氣、肝臓病、貧血である。男性に比較して大差のあるのは神経症で、女性3.1%に対し男性1.5%で、脚氣も女性4.2%に対し男性1.2%となつてゐる。神経痛及びロイマは男性については血圧の上昇に従い低率を示すが、女性では血圧との関係は著明でない。

表 18 男 女 別 成 人 病

疾 患	血 圧		A		B		C		D		計		
	性 別	%	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
													男
本 態 性 高 血 圧		6.5	6.2	79.5	82.6	100	100	100	100	100	100	41.8	40.2
動 脈 硬 化		20.4	10.2	60.9	51.4	87.3	65.2	81.4	92.0	42.4	29.6	42.4	29.6
心 臓 病		16.1	14.4	10.6	12.5	6.3	6.5		16.0	12.5	13.3	12.5	13.3
神 經 痛 ロ イ マ		8.6	9.5	6.2	10.4	3.8	4.3	2.3	12.0	7.0	9.4	7.0	9.4
喘 息		3.2	1.3	2.5	1.4	2.5			2.3	2.9	1.2	2.9	1.2
肥 満		3.0	2.0	4.3	0.7	1.3			2.3	3.1	1.3	3.1	1.3
神 經 症		2.7	5.2							1.5	3.1	1.5	3.1
胃 腸 炎		8.9	10.5	8.1	7.6	1.3	4.3	2.3	4.0	6.4	8.8	6.4	8.8
胃 及 び 十 二 指 腸 潰 瘍		3.0	3.0	1.9		2.5			2.3	2.6	1.7	2.6	1.7
糖 尿 病		3.0	2.0	1.9	1.4	5.1	4.3	2.3	8.0	2.9	2.3	2.9	2.3
脚 氣		3.0	6.2	3.1	2.1					2.4	4.2	2.4	4.2
肝 臓 障 碍		5.1	8.5	3.7	4.9	10.1	4.3	9.3		5.6	6.7	5.6	6.7
結 核		4.0	3.3	1.9	2.1	5.1	2.3	2.3		3.5	2.7	3.5	2.7
そ の 他		16.9	22.3	3.7	6.3	6.3	4.3	4.7	4.0	11.6	15.6	11.6	15.6
貧 血		1.9	6.6	0.6	0.7				4.0	1.2	4.2	1.2	4.2
検 診 人 員		372	305	161	144	79	46	43	25	655	520	655	520

註 A. 収縮期血圧 149mmHg 以下
 B. " 150~179
 C. " 180~209
 D. " 210mmHg 以上

総 括 及 び 考 按

1. 自覚症出現率

各自覚症の出現状態を一括してまとめると表19の如く、最も多いのは肩凝で半数以上に認め、ついで倦怠、頭痛、心悸を4割弱に認め、耳鳴、不眠、しびれ感は3割弱に、めまい、胃部膨満、便秘、夜間尿は2割前後に認められる。喀痰、咳嗽、しんせん、嘔気、嘈雜は1割前後であつた。

これ等の自覚症は若年者に於いては軽度のもは無視又は日常生活中に忘却し自然に消失する場合も

屢々認められるが、老年者群にあつては一度感じた自覚症については忘却という事は少く、愁訴として訴えられるため、老年者の多い本調査群に於いては比較的高率に認められる。

2. 血圧上昇につれ高率を示す自覚症について
 便秘、しびれ、しんせん、不眠、夜間尿、耳鳴、咳嗽である。最も血圧との関係の明瞭なものは夜間尿で収縮期血圧 210 mmHg 以上群36.8%に対し、正常血圧群15.7%で約2倍の高率である。これらに属するものは殆んど本態性高血圧と考えられ、長期間の高血圧持続のために、腎機能の低下及び細小

動脈硬化症を招来し、加えて膀胱に於いては膀胱壁の進行性変性により高血圧群に著明な増加をみるに至つた結果と考えられる。

ついで耳鳴に於いて正常群28.7%に対し、収縮期血圧 180~209 mmHg 群に於いて36.8%を認める。不眠、しんせん、しびれ感では少々高血圧群に多くみられる。

尚頭痛については全体からみると血圧との関係は認められないが、女性のみについては正常血圧群が高血圧群よりかえつて高率を示している。男性では血圧の上昇と共に高率にみられ、正常血圧群25.5%に対し、収縮期血圧 210 mmHg 以上群に於いては30.2%に認められる。笹本の¹⁾は種々の時期の高血圧で共通のものとして頭痛をとりあげているが、田坂等²⁾は高血圧者に於ける頭痛は通常血圧の状態に關係があるものの如く解されているが、これは種々疑わしい点があると述べている。著者の上述の結果から言つても頭痛に関しては種々の要因があり、少くとも女性については高血圧の症状とは言えず、従つて頭痛は必ず高血圧を現わすものとはいへない。又脳卒中の危険信号ともいえない。高血圧における場合は他の眩暈、耳鳴、逆上感等の諸症状を参照し、習慣性頭痛と區別して考えるべきである。

3. 血圧上昇につれて低率を示す自覚症について
嘔気、胃部膨満、嗜睡、倦怠、肩凝り、最も著明なのは倦怠感で、正常血圧群44.3%に対し、収縮期血圧 210 mmHg 以上群で27.9%である。

消化器系の自覚症たる嘔気、胃部膨満、嗜睡は總て高血圧群に低率をしめしている。

4. 男性に高率に認める自覚症について
咳嗽及び喀痰で、何れも呼吸器系の症状と共に約3割男性に多く認められる。これは日常生活環境の相違、活動範囲を異にする事及び喫煙の習慣によるものと考えられる。

5. 女性に高率に認める自覚症について
耳鳴、嘔気、便秘、しびれ、振顫、不眠、めまい、心悸亢進、頭痛、倦怠、肩凝り、胃部膨満、嗜睡、夜間尿等である。これ等のうち便秘、めまい、頭痛は何れも男性の2倍に認められ、肩凝り、心悸亢進、嘔気、しびれ、不眠は1.5倍の高率に認められる。

男性に比し女性は感情的情緒的で、周囲に対し過敏な習慣性を持つており、これ等か心因的要素となり、高率の自覚症を示すと考えられ、又更年期による自律神経系の不均衡もその一環と考える。夜間尿、倦怠感は共に約2割高率を示している。胃部膨満、

しんせん、耳鳴の男女差は僅かである。

6. 収縮期血圧 180~209 mmHg 群で最高に認められる自覚症について

耳鳴、しびれ、しんせん、心悸亢進、不眠、便秘である。これ等は収縮期血圧 210 mmHg 以上群ではかえつて減少している。拡張期血圧に於いても同様で 90~109 mmHg 群にすべて最高で 110 mmHg 以上群では減少している。収縮期血圧 180~209 mmHg 群では血圧動揺を示す不安定期を多く含み、収縮期血圧 210 mmHg 以上群に於いては、高血圧が長年月持続し高血圧症として完成され動揺の少ない固定期と考える。拡張期血圧に於いても同様で、90~109 mmHg 群では動揺の多い不安定期を多く含み、110 mmHg 以上群で動揺の少ない固定期と考える。

上記自覚症については動揺期には血圧の昇降による各臓器々官のそれに対応する準備態勢が充分とれていず、又心因的因子等も関与するため自覚症を多く見、固定期に於いては長年月高血圧の持続しているため身体条件がそれに適応し、かえつて前者より自覚症を低率に認めるに至るものと考えられる。

7. 疾病別の検討

以上の自覚症を更に疾病別に分けて検討するため、被検例を疾病別に分類すると、表17の如く本態性高血圧症が最も多く、次いで動脈硬化症、心臓性疾患、神経痛及びロイマ、胃腸炎、肝臓障害となつており、血圧上昇に伴ない増加する疾病は本態性高血圧症、動脈硬化症、糖尿病の順となり、糖尿病は前2者の合併と考えられる。

先に考察した血圧上昇につれて高率にみられる自覚症、便秘、しびれ、しんせん、不眠、夜間尿、耳鳴、咳嗽、就中夜間尿はこれら疾病に基因するものと考えらるべきであらう。一方血圧上昇に伴ない減少するものは心臓性疾患、胃腸炎、貧血、脚氣、胃及び十二指腸潰瘍、神経痛及びロイマ、喘息となつており、先に考察した自覚症では嘔気、胃部膨満、嗜睡、倦怠、肩凝り、疾病との關聯の深いことがわかる。

次に男性に高率な疾患は本態性高血圧症、動脈硬化症、喘息、肥満、糖尿病、胃及び十二指腸潰瘍、結核となつている。自覚症では先に検討した如く咳嗽、喀痰程度で、疾病より来る自覚症をそのまま表示していない。このことは先にものべた通り、男性は女性に比し自覚症を訴える割合の低い結果に外ならない。

一方女性に高率な疾患は表18の如く心臓性疾患、神経痛及びロイマ、神経症、胃腸炎、脚氣、肝臓病、貧血等で就中神経症、脚氣、貧血が目された。こ

の際自覚症では先に検討しれ如く便秘、めまい、頭痛、肩凝、心悸亢進、嘔気、しびれ、不眠が高率にみられ、以上の疾患が自覚症を多発し易く、又女性により自覚症を起し易いこと、併せ、興味あるところである。

結 論

成人病検診を行い成人に多くみられる自覚症を血圧別、男女別に分類して検討を加え、次の結果をえた。

① 自覚症中最も多いのは肩凝で、半数以上に認められ、ついで倦怠感>頭痛>心悸亢進>耳鳴>不眠>しびれ感>めまい>胃部膨満>便秘>夜間尿>喀痰>咳嗽>しんせん>嘔気>嘈雜の順となっている。

② 血圧上昇につれて高率を示す自覚症は便秘、しびれ感、しんせん、不眠、夜間尿、耳鳴、咳嗽である。最も著明なのは夜間尿及び耳鳴である。

③ 血圧上昇につれて低率を示す自覚症は嘔気、胃部膨満、嘈雜、倦怠感、肩凝で、著明なのは倦怠感である。消化器系自覚症はすべてこれに属する。

④ 性別では男性に高率にみられるのは、呼吸器系の咳嗽、喀痰のみで、全体として女性に多く認められる。女性に高率を示すものは耳鳴、嘔気、便秘、しびれ、振顫、不眠、めまい、心悸亢進、頭痛、倦怠

感、肩凝、胃部膨満、嘈雜、夜間尿等である。中でも便秘、めまい、頭痛は何れも男性の2倍に、肩凝、心悸亢進、嘔気、しびれ、不眠は1.5倍の高率に認められる。女性に全体的に多くみられるのは外界に対する反応の相違及び更年期等によると考えられる。

⑤ 中等度高血圧群で最も多くみられる自覚症は、耳鳴、しびれ感、しんせん、心悸亢進、不眠、便秘で、高度高血圧群は減少をみる。即ち中等度高血圧群には血圧の動揺期を多く含むため、自覚症を多く認め、高度高血圧群では血圧固定期にあるため、自覚症が却つて減少するものと考えられる。

⑥ 被検例を疾病別に分類し、これら疾病と自覚症の発生頻度との関係、更には性別分類による以上の検討をしてみると、自覚症の発生には疾病と性別の両因子が大きく作用していることがわかる。

参 考 文 献

- 1) 冲中他：日本臨床，10，4（1952）.
- 2) 冲中他：内科，1，2（1958）.
- 3) 田坂他：老人病，2，2（1958）.
- 4) 新：診断と治療，46，10（1958）.
- 5) 笹本：循環障碍の臨床，南山堂（1958）.
- 6) 石田：日本医事新報，1802（1958）.

Gerontological Studies, Especially on Epidemiology of Hypertension.

3. Investigation of Diseases and Their Subjective Symptoms

By

Hiroko Date

The First Department of Internal Medicine, Okayama University, Medical School.
(Professor: Kiyowo Kosaka)

The subjective symptoms of the aged were studied classifying the patients by their age and blood pressure. And the following results were obtained:

1. The commonest symptom was stiff shoulder and over one half of the subjects had

this. And the following symptoms appeared in the order given in their frequency. Fatigability, headache, palpitation, tinnitus, insomnia, numbness, vertigo, stomach repletion, constipation, nycturia, expectoration, coughing, trembling, belching, pyrosis.

2. The following symptoms increased with age: Constipation, numbness, trembling, insomnia, nycturia, tinnitus, coughing. Nycturia and tinnitus were most remarkable.

3. Such symptoms as belching, stomach repletion, pyrosis, fatigability and stiff shoulder decreased with the elevation of blood pressure, fatigability being most remarkable. The symptoms of digestive system came under this category.

4. The symptoms of respiratory system were more frequent among women, coughing and expectoration being the only symptoms of this category which were found among men. The following symptoms were highly frequent with women:

Tinnitus, belching, constipation, numbness, trembling, insomnia, vertigo, palpitation, headache, fatigability, stiff shoulder, stomach repletion, pyrosis, nycturia, etc.

Among the above, the frequency of constipation, vertigo, and headache with women was twice of men while that of stiff shoulder, palpitation, belching, numbness, and insomnia was 1.5 times. Such marked subjective symptoms with women may probably be due to their different reactions to the surroundings and their climacterium.

5. The symptoms most frequent with the group with systolic pressure of 180-209 mmHg, were tinnitus, numbness, trembling, palpitation, insomnia, and constipation.

These symptoms increased in the group with 180-209 mmHg because the persons in this group were in the period when the blood pressure fluctuates sharply while it dropped with the group with over 210 mmHg as their blood pressure was stabilized.

6. It was found the disease and sex difference were two important factors for causing subjective symptoms.
